

# 怖～い カエルツボカビ

## アジア起源か

カエルなど両生類の絶滅や減少が世界的な問題になっていきます。原因の一つとして疑われているのがカエルツボカビです。カエルツボカビ症によるカエルの激減は中米が発端でしたが、その起源は日本を含むアジアにある可能性が高いことが分かりました。  
(神田康子)

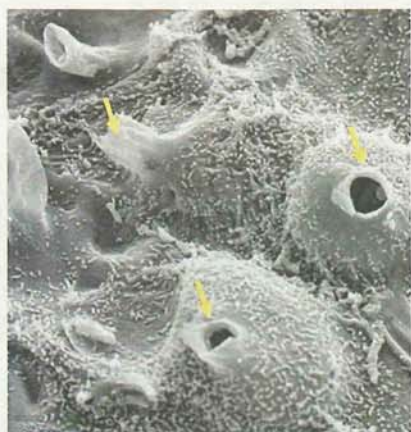
1998年、中米のパナマでカエルの大量死が起こりました。地域の個体群が絶滅する被害もあったといえます。死んだカエルの粘膜を調べたところ、共通して見つかったのがカエルツボカビでした。

### 全国的に調査

当初、カエルツボカビの起源はアフリカとみられていました。南アフリカ原産のアフリカツメガエルが実験動物として世界中に輸出されており、カエルツボカビに感染しても発症しません。感染したまま病原菌を運んでいるとみられたのです。日本でカエルツボカビによる被害が確認されたのは2006年でした。ペット用に輸

進されて体の成長量が減り、小型化します。それだけで死ぬかどうかはわかっていませんが、弱ったカエルがほかの個体との競争で不利になったり、動きが鈍くなって天敵に襲われやすくなったりするのではないかと推測されています。

パナマのほか、オーストラリアでもカエルツボカビ症によるカエルの大量死が発生し



カエルツボカビの電子顕微鏡写真。矢印は、べん毛を持つ胞子が入っている遊走子嚢(のう)の口(麻布大学・宇根有美准教授提供)



カエルツボカビ症にかかったベルツノガエル(国立環境研究所提供)

## 世界の両生類に打撃／輸出入は慎重に

入された南米産のカエルがカエルツボカビ症にかかっていました。アジアで初めてのことでした。

国立環境研究所、麻布大学を中心とした研究グループは、その直後から日本でカエルツボカビ症が流行する危険がただけであるのかを評価し、予防策を講じるため、調査を始めました。全国のペットショップや水族館、博物館など室内で飼育されている両生類約10000個体、野生の両生類約60000個体を調べました。

### 抵抗力を持つ

飼育されているものではなく、外国産のものも多く、全体で30%近くが感染していました。

野生のものでは、全体の3%がカエルツボカビに感染していました。アマガエル、ヌマガエルなどでは1%以下でしたが、オオサンショウウオでは40%、オキナワシリケンイモリでは60%以上と高い確率で感染していました。輸入されてから野生化したアフリカツメガエルやウシガエルで

は20%が感染していました。カエルツボカビを感染させる実験を行ったところ、興味深い事実が浮かび上がりました。南米産のベルツノガエルは発症したのに、日本のヌマガエルは発症しませんでした。研究グループの五箇公一さん(国立環境研究所首席研究員)は「日本の両生類はカエルツボカビへの抵抗力を持っていると考えられる」と話します。

遺伝子の解析にもとづいてカエルツボカビを分類しました。日本で見つかったカエルツボカビは30タイプ以上で特定のタイプに偏ってはいませんでした。ところが、外国で報告されたカエルツボカビは数タイプだけで、99%が一つのタイプに偏っていました。

五箇さんは「日本のカエルツボカビの方が外国のものより長い歴史を持っていることを示している。カエルツボカビは日本を含むアジア起源であることを示す有力な証拠だ」と話します。

日本からは過去にウシガエルを輸出していたこともあり、また、90年代からペットとして海外と取り引きされている種類もあります。

五箇さんは、日本から国外へ、カエルやイモリとともにカエルツボカビが運ばれた可能性があるとみており、「外来生物の問題は、目に見えない小さな生物についても考慮しなくてはならない。両生類を含め、生物の輸出入については慎重さが求められる」と話しています。

### ※掲載許可取得済

しんぶん赤旗に無断で転載することを禁止します。